

# 2013カーディフ高校訪問団交流事業報告

棚倉町は、平成14年に豪州レイクマコーリー市と国際姉妹都市となり、レイクマコーリー市カーディフ高校と棚倉中学校は姉妹校として交流を深めてきました。

原発事故等の影響により、3年ぶりの訪問団による交流事業となりましたが、国際交流事業として継続していくことが必要であることを再認識しました。



今回の訪問は、9月29日から10月3日にかけてカーディフ高校の生徒と先生等15名による訪問団であり、

棚倉町の生活に触れたり体験していただくホームステイ、中学校の体験学習や日光遠足といった交流事業について、その一部をご紹介します。

各ホストファミリーのお宅で過ごした5日間。30日には歓迎会が行われ、1日には中学校において、書道や琴、浴衣の着付けなど日本文化や音楽の体験授業を通じて交流が行わ



れました。10月3日には、別れの朝を迎えました。伝えたい気持ちとは別に伝わらないもどかしさと別れの悲しさを胸に抱え、ホストファミリーに見送られながら、訪問団は町を後にしました。

交流事業を通じて得られた貴重な体験は、子供達の心に残っていくものであり、国際理解を深め、成長していくための糧となると思います。

今回の訪問にあたり、ホームステイを快く受け入れていただきましたホストファミリーの皆様には、心より感謝申し上げますとともに、訪問団として送り出してくれたカーディフ高校のご両親やご家族に心から感謝申し上げます。

【お問い合わせ】  
棚倉町活性化協会（企画情報課内）  
☎ 33・2112



## ホームステイを受け入れられた家族の皆様からのアンケートの一部を紹介します。

○受け入れるまでいろいろ心配でしたが、娘共々よい経験になりました。もっと何かしてあげればよかったかなと心残りもありますが…。昨年は、ホームステイに行かせて頂き大変お世話になりました。行かせることも受け入れることも実施することはとても大変だと思いますが、これからも続けてほしいと思います。お世話になりました。

○実際に受け入れてみると、普段の何気ない生活がとても新鮮に感じました。家族が食卓を囲んで、「いただきます」「ごちそうさま」そして「いらっしゃい」「そして」「いってらっしゃい」「おかえりなさい」が改めて、大切なことに気付きました。娘のおかげで素晴らしい経験することができました。ありがとうございます。

○とても貴重な経験でした。会話も単語をつないでやっと思いましたが、通じるととてもうれしくなりました。やはりもっとコミュニケーションを図りたかったので、英語力もつきたいなぁと今更ながら感じました。